



2023年3月 会報 厚木ワイズメンズクラブ 第206号

佐藤節子クラブ会長	ひたすらに、ゆったりと 輝いて！ ～いつも笑顔で！～	会長 佐藤節子 副会長 石井芳隆 副会長 小松仲史 会計 森田智重子 書記 川口知幸 書記 徳澤洋子 監事 小林 秀 担当主事 阿部正伴
主 湘南・沖縄部部长	楽しく・元気よく・前向きに ～入りたくなるワイズにしよう～	
東日本区理事	未来に向けて今すぐ行動しよう	
題 アジア太平洋地域会長	新しい時代とともに、エレガントにへんかを	
国際会長	フェロウシップとインパクトで次の100年へ	

今月の聖句
神を愛する者たち、つまりご計画に従って召された者たちには万事が益となるように共に働くということを私たちは知っています。

ロマ書8章28節

横浜 YMCA 報告	阿部担当主事
会長報告	会長
ハッピーバースデー	会長
閉会点鐘	会長

投稿 田口堅吉

ゴリラからの警告

元京大総長 人類学者 山極寿一博士
仲良く皆で食事なんて、サルが見たらびっくり。サルは分散してなるべく仲間に顔を合わせないようにして食事をする。普段は仲間と一緒にいるのは外敵発見率が高く、自分が狙われる確率も低いから。人間は相手とじっくり向き合っ気持を通じ合わせながら信頼関係を築くため、同じものを一緒に食べ、信頼しあって共に生きようとする。しかし最近人間もサルに似た閉鎖的な個人主義をつくろうとしているかにみえる。

以前、人間はできるだけみんなで食事をし、コミュニケーションとして利用した。一人で食べられるのにわざわざ持ち寄って共食したものだ。そして人間の白目はサルと共同の先祖から分かれてから獲得したもので人間独特のものであり、目の動きから相手の同調、共感、心の状態を読み取り、強い信頼関係を育み、高度で複雑な社会を打ち立てることができた。

例えば、住居も建てる時でも、ご近所を意識し、近所の人との親しい交わりを考え、餅投げをしたり、建築中の家の中まで案内したりし、古くからの居住

2023年 3月度 厚木ワイズ本例会 次第

日時 2023年3月22日(水) 18時30分～

形式 対面・ZOOMによる

会場 厚木YMCA

司会 書記

開会点鐘 会長

ワイズソング・ワイズの信条 書記

今月の聖句・感謝の祈り 小林 秀

ゲスト・ビジターの紹介 会長

会長挨拶 会長

卓話

卓話者 堀内裕子さん

プロフィール シニアライフデザイン代表
社会起業家

例会データ	2月	在籍会員	12人
会員	8人	メイキャップ済み	
ビジター	人		人
ゲスト	1人	出席率	66.7%
合計	9人	ロバ	円

者も新入居者に暖かく接し、お互い熟知し合い、共同体をつくりあげてきた。最近の新入居の実態をみるにつけ寒々しさを強く感じる。

さて人間だけがコミュニティを作ることができたのだろうか？

熱帯雨林から離れて草原におりた人間は肉食の猛獣の餌食になりやすかった。その対策は二つ、子供を一度に何匹も生む、または毎年生む。イノシシなど一度にたくさんの子供を産んだ。人類は毎年産むを選んだ。人類は母乳期間を短くし生涯10人まで産むことを可能とした。また草原での生活に適応して直立二足歩行に進化した。手でものを運べる事が出来、食物の確保に大いに役立った。その数百年後今度は脳が大きくなり始めた。産道の大きさから大きい脳の子を生むことはできず、生まれてからも脳は成長を12歳から16歳ころまで続け、優先的に栄養を摂取するので、子供の身体の成長は後回しにされ、長い養育期間を必要とし、母親だけでの子供の世話は無理で、共同飼育が必要となり家族の応援は当然、近隣の家族の協力が生まれ、家族とコミュニティが必要となった。父親もメスから信用され、子供からも頼りにされなければ父親としての行動は発揮できなかつた。要するに家族の合意と隣人の合意の基、育児が進められコミュニティが形成られていった。例えばチンパンジーは自分の利益を減らしてでも仲間を助けようとはしない。

サルはなるべく仲間と顔を合わせないようにして食事をする、人間はできるだけ食物を仲間と一緒に食べようとする。一人でも食べられるのにわざわざ持ち寄って共食する。しかも人間の白目は独自のもので、相手の目の動きで相手の心の状態を知ることができる。お互いの同調、共感はここに始まる。

現代人の脳の大きさに対応する集団規模は150人くらいだといわれている、自然の恵みにたよっている狩猟採集者の平均的な村落のサイズは150人だといわれている、私たちは数万人規模のコミュニティに暮らしているが、実際信頼関係を築いて付き合い合っている人の数は150人程度かもしれない、年賀状を出すときのリストに頼らず思い浮かべられる人の顔の数ではないだろうか。言葉は集団規模を拡大したが、本当に信頼できる人々の輪を拡大できてい

ないのではないか。

以上

補足：

サルと別れたのは700万年前

二足歩行、脳の容積拡大 200万年前

農耕開始 1万年前

篠田健一著 「人類の起源」より

2023年2月度 厚木ワイズ本例会報告

日時 2023年2月22日(水)

18時30分～20時

形式 対面・ZOOMによる

会場 厚木 YMCA

司会 書記

開会点鐘 会長

ワイズソング・ワイズの信条 書記

今月の聖句・感謝の祈り 書記

ゲスト・ビジターの紹介 会長

会長挨拶 会長

卓話 ヴァイオリン演奏&お話

奏者 東京西クラブ 本川悦子さん

演目 メンデルスゾーン 春の歌

マスネ タイスの瞑想曲

ブラームス ハンガリー舞曲第5番

横浜 YMCA 報告 阿部担当主事

会長報告 会長

ハッピーバースデー 会長

閉会点鐘 会長

★プログラム★

1. メンデルスゾーン 春の歌

「無言歌集から」文字通り言葉のない歌曲という意味です。作曲者の人柄が現れている情緒豊かな曲です。

2. マスネ タイスの瞑想曲

歌劇「タイス」の中で演奏される優美なヴァイオリン独奏曲です。

3. ブラームス ハンガリー舞曲第5番

ハンガリーのジプシーの音楽に基づいて作曲した舞曲集。1番から21番までありますが、この5番は1番とともによく演奏される曲です。

東京西クラブ 本川悦子



12月 卓話

宮沢賢治は「デクノボウ」になれるか～「雨ニモマケズ」の解釈を通して～NO.2

小林 秀

「野原ノ松ノ林ノ陰」から「小サナ藁ヅキノ小屋ニイテ」 簡素な生活状態を示す（精一）、静かな孤立した粗末きわまる「小屋」である（康作）、鴨長明の方丈記（古典文学）の方丈の家をイメージする（小林秀）

「東ニ病氣ノコドモアレバ」から「ツマラナイカラヤメロトイイ」 この部分は、待遇法を用いて技巧を駆使した表現、深い人間愛に基づく献身によって、現世に平和な生を営みたいというにある。「死ニソウナ人アレバ・・・」には後世に頼みをかける仏教精神が汲みとれる。「北ニケンカヤソショウガレバ・・・」には「世界全体、幸福にならないうちは、個人の幸福はあり得ない」という万人の幸福を祈願する賢治の感情がきこえる。この部分の八行を通じて、衆人救済の積極性がききとれる。思想的には全詩の重点をなしている。（精一）

この八行は、四隣の人々への没我的な献身であり、慈悲の救済である。東西南北、いずれも相手の苦悩を救わんがための抜苦与楽の菩薩行を展開している。あらゆる人々への私なしの奉仕、に汚れなき献身に、心身の力を尽くす一個の「愛の行者」がここに具体化される。

現代人々の地域における医療、福祉、介護の問題は、社会保障制度により処置される。（小林）

「ヒデリノトキハナミダヲナガシ」から「サムサノナツハオロオロアルキ」 みごとな個性価を放つ

ている。「オロオロアルキ」はすぐれている。早魃も困るが、夏の冷涼は収穫の秋を目の前に控えているだけ農家にとって一層悲しく辛いであろう。万人の幸福をそこなう、防ぎがたい自然の暴虐に向かって、涙を流し、おろおろせずにはいられないのである。（精一）

天災に苦しむ農民への同情である。おろおろ心配して田畑を彷徨せざるを得ない、強く激しい体感としての同情である。（康作） ★続く

事務例会報告

3月11日 18:30～ ONLINEにて

1. 3月と4月の卓話者について
3月 堀内裕子さん
4月 加藤利榮さん

2. 4月の移動例会について

出席者 佐藤、小松、森田、徳澤、川口

編集後記

小林秀さんの12月の卓話の続き・NO. 2を掲載いたしました。（TK）

オンラインで参加される方のために

ワイズの信条

1. 自分を愛するように、隣人を愛そう
2. 青少年のためにYMCAにつくそう
3. 世界的視野をもって、国際親善をはかろう
4. 義務をはたしてこそ、権利が生ずることをさとりよう
5. 会合には出席第一、社会には奉仕第一を旨としよう

いざたて

1. いざ立て 心あつくし
手を挙げ 誓いあらたに
われらの モットー守る
ふさわし その名ワイズメン
絶えせず めあて望み
この身を 捧げ尽くさん
2. 歌えば 心ひとつに
ともがき ひろがり行きて
遠きも 近きも皆
捧げて 立つやワイズメン

栄えと 誉れ豊か
まことは 胸にあふれん